

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立津久戸小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重点	・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各教科において ICT 機器も活用しながら、双方向のコミュニケーションのある授業を目指す。 ・授業を通して、児童が夢中になって学びの対象に関わり、「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことの3つに重点をおきながら、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。
環境作り		・クラスの中で、一人ひとりの児童が安心感と他者への信頼を実感できる学級経営を目指す。 ・児童が見通しをもてる授業設計と、それを可能にする教室環境（ユニバーサルデザインの視点）を整備する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・経験したことや想像したことをもとに、自分の考えを話す。 ・積極的に発言できる児童が多いが、互いの話を聞く。 ・具体物を用いた活動を通して数についての感覚を身に付けたり、反復学習を通して学びを定着させる。	① 文章の内容と自分の経験を結び付けた発表 ② 相手の発言に対し尋ねたり応答したりする活動 ③ 具体物の操作とデジタルドリルを併用した学習
2 学 年		・漢字の書きができるようにするために、正しい字形を捉えて書くことや正しい筆順で書く意識を形成する。 ・加法、減法、乗法の定着のために、補充問題をする。 ・数学的な表現を確実にするために、加法、減法、乗法が用いられる場面を式に表したり、場面を絵や図で表したりする。	① 紙ドリルとデジタルドリルを併用した文字の学習 ② デジタルドリルを使用した、基礎的な計算練習の日々の取り組み ③ 具体物の操作や絵や図を意図的に描く授業の展開
3 学 年	・物語文の場面の様子を読み取る力が十分に身に付ける必要がある。 ・新宿区学力定着度調査の結果、3位数-2位数(繰り下がりあり)の筆算、水のかさの理解を深める必要がある。	・作文等の文章を書く機会を増やし、考えたり、書いたりすることに慣れる。 ・計算の決まりを正しく理解し、正確に計算できる力を身に付ける。 ・個に応じた課題を認識し、達成する。	① 作文や日記を日常的に書かせる活動の設定 ② 具体物の操作とデジタルドリルを併用した学習 ③ 基礎的な計算練習の日々の取り組み ④ 児童一人一人に即した課題の設定
4 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果、全体的に全国平均を上回っている。 ・「言葉の使い方」や「情報の扱い方」について理解し、表現する力を向上させる必要がある。 ・身の回りにあるものの量感や単位換算を身に付ける必要がある。	・自分の思いが相手に伝わるように、要点を抑えながら話したり書いたりする経験を積ませる。 ・長さや量などの単位ごとの量感を養い、数える経験を通してイメージできるようにしていく。	① 読書等の環境整備・新聞の活用など、文字に触れる機会の設定 ② 互いに評価しあうための、発表の場面の設定 ③ 具体物の提示
5 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果、全体的に全国平均を上回っているが、学力差が大きい。 ・漢字の書き取りが確実に身に付ける必要がある。 ・分度器や三角定規など直接操作する活動を通して、比べることの理解を深める必要がある。	・基礎基本を身に付け、自律して学習に取り組ませる。 ・文章を組み立てたり、話を聞く際に要点を見つけたり、言葉を正しく遣う力を身に付けさせる。 ・分度器や三角定規などの操作方法を確認し、反復学習を通して確実に定着させる。	① 既習事項を確認する時間を設定し、見通しをもたせる学習活動の実施 ② 下書きを書いたり、聞くポイントを指導して計画性をもって言葉を使ったりする指導 ③ 児童一人一人に即した課題の設定、放課後補習での対応
6 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果、全体的に全国平均を上回っている。 ・漢字の書き取りにおいて、より力を向上させることが必要である。 ・基礎的な計算技能や図形の性質の理解に個人間で差がある。	・文章内容を大きく捉え、要旨をまとめる力を付けたり、接続語や指示語を手掛かりに文章構成を考えたりする力を伸ばす。 ・基礎的な計算方法を都度確認し、反復学習を通して確実に定着させる。	① 字数を指定して書く学習や、文中の言葉に着目して読む学習の設定 ② デジタルドリルを活用した反復学習 ③ 児童一人一人に即した課題の設定、放課後補習での対応

特別支援			
------	--	--	--